

2023年1月15日作成 Ver1.0

《情報公開文書》

頭蓋外動静脈奇形に対する画像診断と血管内治療についての臨床研究

研究の概要

【背景】 動静脈奇形（AVM）は、動脈と静脈とが正常の毛細血管床を介さずに異常な交通を生じた先天性の血管病変であり、脳・肺・腎といった実質臓器以外にも、頭頸部や体幹部、四肢など全身のあらゆる部位に生じます。生下時から存在し、成長とともに増大します。臨床所見の分類には Schöbinger 分類が用いられており、初期には皮膚紅潮・発赤といった軽微な症状ですが進行すると潰瘍や出血、シャント量増加による心不全の発症につながります。

AVM は形態によって type I～Ⅲに分類され、血行動態の違いからそれぞれ有効な治療方法が異なっています。さらに、同一 type 内でも部位や形態により有効な治療法が異なってくるため、まとまった治療成績として評価しにくいのが現状です。

侵襲的な治療として血管内治療や外科的治療が挙げられ、それぞれを組み合わせる治療することもあり、治療成績についてまとまった報告が少ないです。今回、当院での AVM に対する治療前向きな画像診断法と、血管内治療の成績を後ろ向きに検討し、治療成績をまとめることで効果的な治療法選択の一助になると考えました。

【目的】 本研究は、当院での AVM の血管内治療前の最適な画像検査法と type 別に最も治療効果の高い血管内治療法を明らかにすることが目的です。

【意義】 AVM 症例における最適な診断法・治療法の検討や AVM の治療成績の向上につながることを期待できます。

【方法】 研究対象者の診療録情報や画像所見を収集し、AVM の血管内治療前に行った画像検査のなかで最も血管造影所見を正確に反映していたもの、および type 別に最も病変消失率の高い血管内治療法について明らかにしていきます。

対象となる患者さん

2012/1/1 以降 2028/3/31 までに四肢・体幹・その他軟部組織の AVM に対する血管内治療を受けた患者さん

研究に用いる情報	
<p>●研究に用いる情報 下記の情報を診療録より収集します。</p> <ul style="list-style-type: none">・患者背景・自覚所見・臨床検査所見・治療前画像検査所見・治療時血管造影・治療方法・再発の有無・有害事象 <p>本研究で利用する情報等について詳しい内容をお知りになりたい方は下記の「お問い合わせ先」までご連絡ください。</p>	
情報の利用開始予定日	
<p>本研究は 2024 年 2 月 27 日より「研究に用いる情報」を利用する予定です。</p> <p>あなたの情報をこの研究に使われたくない方は下記の「問い合わせ先」までご連絡頂ければ対象者から外します。その場合もあなたの治療等に不利益になることはありません。</p> <p>ご連絡のタイミングによっては対象者から外せない場合もあります。</p> <p>あらかじめご了承ください。</p>	
研究実施期間	
研究機関長の許可日～2028/12/31	
研究実施体制	
研究責任者	所属：長崎大学病院 放射線科 氏名：石丸 英樹 住所：長崎県 長崎市 坂本 1-7-1 電話：095 (819) 7354
情報の管理責任者	長崎大学病院 病院長
問い合わせ先	

【研究の内容、情報等の利用停止の申し出について】

長崎大学病院 放射線科 石丸 英樹

〒852-8501 長崎市坂本1丁目7番1号

電話：095（819）7354 FAX 095（819）7357

【ご意見、苦情に関する相談窓口】（臨床研究・診療内容に関するものは除く）

苦情相談窓口：医療相談室 095（819）7200

受付時間：月～金 8：30～17：00（祝・祭日を除く）